

BUSINESS REPORT

株主の皆様へ



三井金属

証券コード:5706

2016

特集: **マテリアルの知恵を活かす**

Vol.1

排ガス浄化触媒

秋冬号

第92期上半期報告書

2016年4月1日 ▶ 2016年9月30日



Financial Highlights



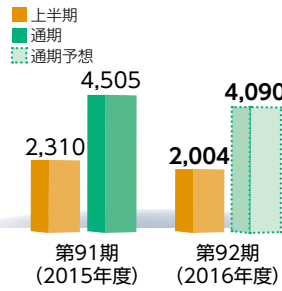
財務ハイライト(第92期上半期)

上半期の三井金属グループの売上高は、円高が進行したこと等の影響により、前年同期比13.2%減少の2,004億円となりました。

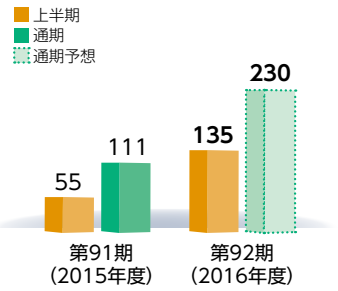
損益面では、非鉄金属相場や為替相場の変動に伴うたな卸資産の在庫影響が好転したこと等により、営業利益は前年同期比146.2%増加の135億円となり、経常利益は、持分法による投資損失41億円等を計上したものの、前年同期比47.5%増加の89億円となりました。

これに、特別損失、税金費用等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比96.5%増加の51億円となりました。

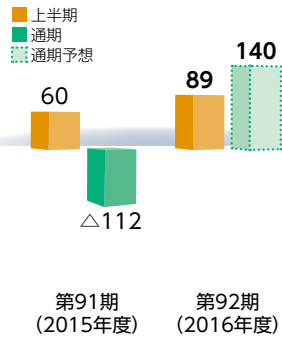
売上高(億円)



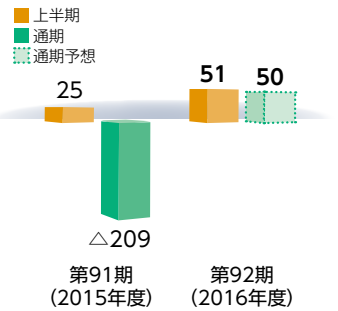
営業利益(億円)



経常損益(億円)



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純損益(億円)



※通期予想につきましては、2016年11月8日現在において入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

セグメント別業績の概況



機能材料

◆当上半期のポイント

キャリア付極薄銅箔やプリント配線板用電解銅箔、スパッタリングターゲットの主力であるITO等の需要は堅調に推移したものの、インジウム価格が低調に推移したことや円高が進行したこと等から売上高は減少。経常利益は、在庫要因の好転や銅箔の販売量が増加したこと等の影響により増加。

売上高

705 億円
(前年同期比4.1%減)

経常利益

59 億円
(前年同期は1億円の経常損失)



金属

◆当上半期のポイント

円高が進行したこと等から売上高は減少。経常利益は、在庫要因が好転したものの、カセロネス銅鉱山における安定操業体制への移行の遅れ等の影響により減少。

売上高

592 億円
(前年同期比15.3%減)

経常利益

6 億円
(前年同期比78.9%減)



関連

◆当上半期のポイント

非鉄金属相場が低調に推移したことや一部製品の販売量が減少したこと等により、売上高は減少。経常利益は増加。

売上高

492 億円
(前年同期比5.0%減)

経常利益

14 億円
(前年同期比15.1%増)



自動車部品

◆当上半期のポイント

自動車用部品の需要は、北米および中国市場において堅調に推移したものの、国内は軽自動車税増税の影響等により低調に推移し、売上高は減少。経常利益は増加。

売上高

546 億円
(前年同期比1.0%減)

経常利益

27 億円
(前年同期比36.5%増)

売上高 構成比

30.2%

25.3%

21.1%

23.4%

※各セグメントの売上高および経常利益はセグメント間の内部売上高または振替高を含んでいます。
※当第1四半期より「自動車機器」から「自動車部品」にセグメントの名称を変更しています。

Special Feature ちえわ 知恵の環

特集: マテリアルの知恵を活かす Vol.1

“さらなる成長への挑戦”

～3カ年の中期経営計画「16中計」の達成に向けて～

機能材料事業: 排ガス浄化触媒

「16中計」2016年4月スタート

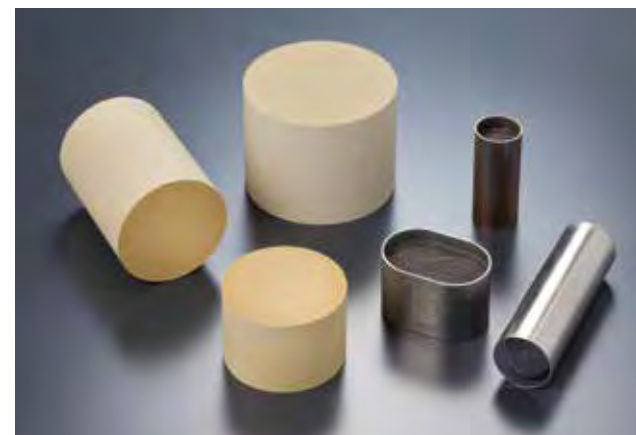
三井金属グループは、2016年4月から3カ年の中期経営計画「16中計」をスタートしました。10年後のありたい姿を見据え「機能材料、金属、自動車部品の3事業を核に、成長商品・事業を継続的に創出可能な体制を構築する」を基本方針としています。これら3事業および成長商品・事業について、特集として取り上げ、株主の皆様に分かりやすくご紹介いたします。今回は機能材料事業における「排ガス浄化触媒」についてです。



事業の特徴

排ガス浄化触媒は、白金、パラジウム、ロジウムなどの貴金属を用いて、自動車の排出ガスに含まれる人体に有害な物質を化学反応により無害化する製品です。

近年、世界各国の排出ガス規制が強化される中、排出ガスの浄化という大役を担っている排ガス浄化触媒は、地球環境の保護に貢献する製品として注目されています。当社は、世界各国の規制に対応する触媒をグローバルに供給しており、既に二輪車向け排ガス浄化触媒で世界シェア50%超を獲得していますが、今後は二輪車だけでなく、四輪車(ガソリン車、ディーゼル車)向けとしても、将来の規制動向を見据えた先端触媒を開発していきます。



POINT

成長が見込まれる 四輪車向け排ガス浄化触媒

世界各国の四輪車の生産台数の合計は約9万台(2015年末時点)であり、世界市場は、当面年率2%程度の安定的な成長が予想されています。また環境負荷低減を背景とした排出ガス規制の強化もあり、四輪車向け排ガス浄化触媒の需要は増加傾向にあります。

二輪車向け排ガス浄化触媒で培った 貴金属の少量化技術

各国が排出ガス規制を強化する中で、排ガス浄化触媒の品質や性能に対する要求は高まっています。当社は、高性能触媒に対するニーズに応える技術を二輪車向け排ガス浄化触媒で培ってきました。その技術力を活かし貴金属以外の材料の最適化により、使われる貴金属量を減らしながらも排出ガス規制が求める浄化性能を発揮する触媒の開発に成功し、製品化しました。環境問題という社会的な課題解決と共に、コスト削減にも寄与しており、今後も技術開発を強化していきます。

四輪車向け排ガス浄化触媒の 生産開始

当社はインド、中国、インドネシア、タイ、ベトナムのアジア5カ国と日本、米国に二輪車向け排ガス浄化触媒の生産拠点があります。これらの拠点の設備やネットワークを四輪車向けとして活用することで、左の地図のとおり米国での触媒生産能力の強化に加えて、日本とアジアでの生産を開始し、拡大する四輪車向けの触媒市場でのシェア向上を目指します。

排ガス浄化触媒の事業拠点



重点施策【触媒】 四輪車向け生産拠点の拡充



社外役員の交代について

2016年6月

当社は、コーポレートガバナンスを経営上最も重要な課題と捉えており、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定のため、独立した立場と専門的な見地から、経営の意思決定を監督する社外取締役と取締役の職務の執行状況を監査する社外監査役を2名ずつ配置しております。第91期定時株主総会においては、社外取締役 松永守央、社外監査役 細野哲弘が新たに選任されました。



社外取締役
松永 守央 (まつなが もりお)



社外監査役
細野 哲弘 (ほその てつひろ)

近赤外線を利用した異物検出システムを出展

～食の安全を脅かす重大な事故を防ぐための技術～

2016年9月

三井金属グループの三井金属計測機工株式会社は9月末に、DIC株式会社と共同開発を進めている近赤外線の

発光を利用する安全性の高い食品内部の異物検出システムを、東京ビッグサイトで開催された「フードセーフティジャパン2016」に共同出展しました。食品中への異物混入は重大な事故につながる恐れがあるため、製造工程において様々な異物検出装置が導入されていますが、比重の小さいプラスチックやゴムなどの異物に関しては検出が難しく、これらの異物を検出するための新しい技術が求められています。出展した異物検出システムは、DIC株式会社開発の「近赤外線発光する色素」と三井金属計測機工株式会社の「近赤外線発光を検出する装置」とを組み合わせたものです。「近赤外線発光する色素」を食品加工ラインで用いるプラスチック部品などに混練することで、同部品が加工食品中などに混入した場合でも、「近赤外線発光を検出する装置」で、混入したプラスチックの食品内部での発光を可視化することができます。異物混入リスクを大幅に削減し「食の安心安全」に貢献できると期待されています。



食品中に混入したプラスチック(近赤外線発光する色素を含む)の検出イメージ



NIR異物検出装置

NEWS

三井金属グループCSR報告書2016発行

2016年10月

当社では2016年より、これまで発行してきました環境報告書に代わりCSR報告書を発行することとしました。今回の報告書は当社のCSRの基本的な考え方の整理に重点をおき作成しています。今後も株主の皆様にお役立ていただけるよう内容の充実に努めてまいります。三井金属の初めてのCSR報告書、ぜひご一読ください。

CSR基本方針の制定と推進体制の確立

当社のCSRとは三井金属グループの経営理念を実現することそのものであるとの認識の下、「経営理念」「スローガン」「行動規準」をCSR基本方針として決めました。本年7月に代表取締役社長を委員長として組織されたCSR委員会を中心に、全社を挙げてCSR活動の取り組みを更に加速してまいります。



●最新のPDFをダウンロードできます。

www.mitsui-kinzoku.co.jp/csr/



OUTLINE

→ 会社概要 (2016年9月30日現在)

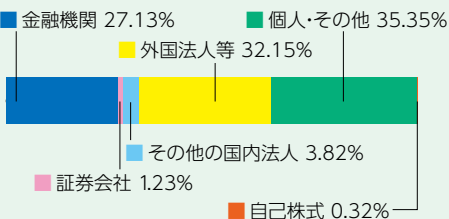
商号 三井金属鉱業株式会社
(Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd.)
【呼称:三井金属/MITSUI KINZOKU】

本店 東京都品川区大崎一丁目11番1号
設立 1950年5月1日
資本金 42,129百万円

→ 株式の状況 (2016年9月30日現在)

発行可能株式総数 / 1,944,000,000株
発行済株式総数 / 572,966,166株
株主数 / 46,015名

所有者別株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	33,409	5.84%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	31,029	5.43%
CBNY - ORBIS SICAV	14,109	2.47%
三井金属社員持株会	13,228	2.31%
BBH BOSTON CUSTODIAN FOR JAPAN VALUE EQUITY CONCENTRATED FUND A SERIES OF 620135	12,200	2.13%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	10,106	1.76%
CBNY - GOVERNMENT OF NORWAY	9,891	1.73%
CBNY DFA INTL SMALL CAPVALUE PORTFOLIO	9,832	1.72%
CBNY - ORBIS FUNDS	8,892	1.55%
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	8,592	1.50%

※持株比率は自己株式 (1,860,383株) を控除して計算しております。
※持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。

→ 株主メモ

定時株主総会の議決権の基準日 3月31日
期末配当の基準日 3月31日
中間配当の基準日 9月30日
定時株主総会 6月下旬

株主名簿管理人・特別口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

ご連絡先
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-782-031

公告の方法

電子公告とする。(http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/)
ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。

〈株式事務のお取扱い〉

- 未払配当金の支払いのお申出先
左記三井住友信託銀行にお申し出ください。
- 住所変更、単元未満株式買取等のお申出先
①証券会社の口座へ株式をお預けになられている株主様は、お取引のある証券会社にお申し出ください。
②証券会社の口座へ株式をお預けになられていない (特別口座に記録されている) 株主様は、左記三井住友信託銀行にお申し出ください。

ホームページのご案内



当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。

株主・投資家情報



「個人投資家の皆さまへ」では、事業内容や専門用語の解説、株式事務手続きなどの情報をまとめてご紹介しています。



三井金属

検索

<http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/>

BUSINESS REPORT

ビジネスレポート

第92期上半期報告書
2016年4月1日 - 2016年9月30日



三井金属鉱業株式会社

〒141-8584 東京都品川区大崎一丁目11番1号
TEL:03-5437-8240



環境に配慮した FSC® 認証紙と植物油インキを使用しています。